

2020年度 SF入学試験	学部 社会学部	試験科目 小論文(論文Ⅰ)
------------------	------------	------------------

別紙解答用紙に解答すること。

「小論文(論文Ⅰ)」・「小論文(論文Ⅱ)」とも必答

資料1～3をよんで、下の設問(問1～4)に答えなさい。

資料1 日本における総人口に占める外国人人口の割合の推移

(単位:%)

年次	総人口に占める 外国人人口の 割合
1950	0.72
1955	0.72
1960	0.70
1965	0.68
1970	0.68
1975	0.67
1980	0.67
1985	0.70
1990	0.87
1995	1.08
2000	1.33
2005	1.57
2010	1.67
2014	1.95

出所) 厚生労働省ホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15/backdata/01-01-01-019.html> より抜粋

*データ元は法務省「在留外国人統計」。2000年までは、「外国人登録令」、「外国人登録法」に基づき登録された各年12月末日現在の外国人登録者数。2014年は、在留資格又は特別永住者の地位をもって在留する総在留外国人数。総人口に占める外国人人口の割合は、2010年までは総務省統計局「国勢調査」、2014年については総務省統計局「人口推計」における各年10月1日現在の人口を用いて算出。

資料2 G7各国における外国人人口、総人口、総人口に占める外国人人口の割合(国籍によって算出:2016年)

国名	外国人人口(万人)	総人口(万人)	外国人人口の割合(%)
カナダ	240	3611	6.7
フランス	440	6669	6.6
ドイツ	911	8235	11.1
イタリア	503	6063	8.3
日本	223	12693	1.8
イギリス	595	6565	9.1
アメリカ	2243	32307	6.9

出所) OECD, Stat

<https://stats.oecd.org/>

Historical Population Data と International Migration Database により作成

資料3

法務省は29日、実習先から失踪した外国人技能実習生5218人に関する調査結果を公表した。759人が最低賃金を下回るなどの不正行為に遭っていた疑いがあった。2012～17年に事故や病気などで実習生171人が死亡し、うち4人は違法な時間外労働をさせられるか休日不足の疑いがあった。

安倍晋三首相は同日開いた外国人材受け入れに関する会合で「技能実習生の失踪や大学留學生の行方不明が問題となっている。国民の不安を解消するために制度の適正な運用を確実にする」と強調した。4月から新たな外国人材の受け入れ制度が始まるのを前に「新たな制度が円滑に実施されるよう関係省庁が連携して対応してほしい」と指示した。

実習生の失踪は増加しており、18年は前年から1963人増の9052人だった。18年末時点の実習生は32万8360人。

(…中略…)

技能実習制度をめぐっては野党が昨年、17年の失踪者の聴取票約2890人分を集計。67%にあたる1939人が最低賃金を下回る低賃金で働いていたと指摘していた。

法務省は28日までに労働関係法令違反の疑いがある事案を労働基準監督署などに通報した。19年度からは受け入れ企業が失踪届を提出した段階で、外国人技能実習機構や地方入国管理局が実地調査をするよう運用を改める。近く省令を改正し、失踪に責任がある企業の新たな受け入れを停止する。

「外国人実習生失踪、企業の不正行為759人 法務省が調査結果」『日本経済新聞』2019年3月29日、<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ043066660Z20C19A3EAF000/>

設問 (いずれの間も、簡条書きではなく、文章で解答すること。)

問1 資料1にもとづき、日本における総人口に占める外国人人口の割合の推移について説明しなさい。また、そうした推移の結果、どのような利点または問題が生じるか。あなたの意見を述べなさい。

問2 資料2にもとづき、G7各国の総人口の違いについて説明しなさい。

問3 資料2にもとづき、G7各国の総人口に占める外国人人口の割合の違いについて説明しなさい。また、資料2のなかから1つの国を選び、その国で外国人人口の割合が高いもしくは低い理由について、あなたの意見を述べなさい。

問4 資料1・資料2・資料3の内容をふまえて、今後日本は外国人(労働者含む)の受け入れについてどういった政策を行っていくべきか、あなたの意見を述べなさい。

以上

別紙解答用紙に解答すること。

「小論文(論文Ⅰ)」・「小論文(論文Ⅱ)」とも必答

文章を読み、以下の3つの問いに答えなさい。

(A) 男らしさ、男の子らしさとスポーツとを関連付けるのは、自然なことだと考えられている。 スポーツに興味があれば、男性としての不完全さを疑わせる兆候として捉えられてしまう。男の子のアイデンティティにおいて、スポーツは重要問題だ。アメリカでは、3年生から5年生の男の子の70%、6年生から8年生の男の子の63%が、スポーツは「自分のアイデンティティの大きな一部」と答えている(女の子ではそれぞれ35%と40%であった)。しかしとくに注目すべきは、スポーツをしない男の子でさえ、その42%がスポーツは自分の「大きな一部」と答えていることである。社会学者のマイケル・キンメルは、著書『Guyland ガイランド』の中で、スポーツへの興味は、男らしさを決定づける特性のひとつだと言う。今もスポーツは男性の領域であり、男性が集団としてのアイデンティティを見出せる場所だ。またスポーツは、喜びや敗北の涙のようなかたちで、男性が極端な感情を表現することが許される、数少ない機会のひとつである。「男たちはスポーツのために生き、スポーツを通して生きている」とキンメルは述べている。「スポーツは、実に多くの役割を果たしている。我々の男らしさを証明し、世代間、人種間、社会階層間の壁を取り払い、男性同士の絆を固め、そして、男の世界と女の世界の間の境界線をいっそう明確にするのだ」。

2016年の秋、アメリカ大統領選挙のわずか1ヶ月前、「ワシントン・ポスト」紙は、テレビ番組「アクセス・ハリウッド」で10年ほど前に撮影されたビデオテープの映像を受け取った。内容は、当時は大統領候補だったドナルド・トランプが、女性へのアプローチテクニックについて話しているものだった。「美しい女性には自動的に引き寄せられる。自然にキスし始めるんだ。マグネットみたいなもんだ。とにかくキスする。待ったりなんかしない」。これが彼の言葉である。「こっちはスターなら、女は許してくれる。何でもできる。アソコをつかむことだってできる。何でもできるんだ」。彼が言ったことが本当なら、性的暴行をしたと認めていることになる。実際、既に数人の女性が性的暴行で彼を訴えている。しかしトランプは、このニュースが広まった時、これは単なる「(B) ロッカールームの軽口」だった、と説明した。ここに暗示されているのは、合意なしに女性に触ったりキスしたりできると自慢するのは、男だけの空間では普通の会話だ、という意識である。

トランプよりもずっとロッカールームのことをよく知っている、プロ・アマのアスリートたちの反応はすばやかった。元NBAスター選手のダンテイ・ジョーンズは「トランプのコメントが『ロッカールームの軽口』だというなら、それはああいう発言が許されるって意味になる。許されるわけがない」と発言した。一方、オレゴン州の高校では、学生アスリートのグループが「ワイルド・フェミニスト」というスローガン入りのTシャツを着た自分たちの写真をインターネットで発信した。「性的暴行は、ロッカールームの軽口じゃない」というキャプションを付けたこの画像は大拡散された。

フットボールは精神的にも肉体的にも根性が必要なタフなスポーツで、選手もコーチ陣も、強い野心と競争心を持つアグレッシブなタイプの人々が集まってくる。そんな世界で通用しなくてはならないからだ。しかし、少年たちがフィールドを出たとき、いかに攻撃性のスイッチをオフにするかを教え

別紙解答用紙に解答すること。

ることもコーチの役目だ。「とにかく競争や、支配のために戦うことが重視されますから、気をつけていないと、つい支配欲の強い選手ばかり優遇したり褒めたりしてしまいます。自分の欲しいものを欲しいときに奪い取るタイプの選手です」と高校フットボール部のヘッドコーチを務めるジャクソンは言う。「試合の外では他人を気づかい、女性や女の子に敬意をもって接し、いじめられている生徒がいたら守ってやるのが本物の男なのだ、意識的に選手たちに示していく必要があります」。

「ユーススポーツ内の文化は、子どもたちがコーチからどんな指導を受けるかによってかなり変わってきます」とスポーツライターとして活躍するデイヴ・ザインは言う。「男の子とスポーツという組み合わせは、自由にさせておくと悪い結果に向かっていきがちです(中略)」。スポーツについて語るときに用いられる言葉でさえ、対戦相手を「つぶす」「全滅させる」「破壊する」というふうに、一番になればやる意味がない、というメッセージを感じさせるものが多い、とザインは言う。チームメイトたちは、性差別的、同性愛嫌悪的な侮蔑表現をひっきりなしに口にしていたと言う。女の子たちと同じチームに入れられることは恥だった、とザインは振り返る。さらに悪いのは、コーチに「女みたいなプレイだった」と言われることで、そして最悪なのは「やわなやつ」と言われることだった——女性的、あるいはゲイであることを示唆する表現だからである。このような話し方は反射的なもので、子ども時代のコーチがみんな自分たちの言葉遣いと性差別との関連性を理解していたとは思わない、とザインは言う。

彼が高校1年生の時、ロッカールームで起こったあるエピソードが、際立って記憶に残っていると語る。チームでいちばん物静かな少年が、おしゃべりをさえぎり、みんなに向かって、「オカマ」や「ホモ」のようなゲイに対する侮蔑表現を使うのはやめてほしい、と言ったのだ。彼の父親はゲイで、みんなにもそのこと尊重してほしい、という理由だった。「部屋の中は静まり返りました」とザインは言う。チームには団結が要求され、分をわきまえずに話したり、他の選手の態度を批判したりするのは、ありえないことだ。だが、これは信じられないほど勇気ある行動でもあった。「みんな、自分たちのことが恥ずかしくなり、その少年の強さに畏敬の念を抱きました。彼のような感受性の高さは、普通なら良しとされません。でも、ああいう発言をするのがどれだけ勇気のいることなのか、私たちにも理解できたんです。それ以降は、誰もホモフォビア的な言葉を使わないようになりました」。

レイチェル・ギーザ著(富田直子訳)(2019)『ボーイズ 男の子はなぜ「男らしく」育つのか』DU BOOKS より抜粋。

- 問1 下線部(A)とあるが、文中から「男らしさ」とスポーツが自然に関連付けられていることを示す例を文中からできるだけたくさん抜き出さない。
- 問2 下線部(B)にある「ロッカールームの軽口」とはなにか。文中の表現を使って書きなさい。
- 問3 若者のスポーツに関して近年生じた問題やトラブルをとりあげ(報道でも、自分自身の見聞きした出来事でもよい)、その原因や防止法についてこの文章の議論と関連付けて論じなさい。

以上